

第1回国立市教育委員会臨時会会議録

平成26年8月5日（火）

場所：国立市役所第1・2会議室

出席委員	委員	長	山口直樹
	委員長職務代理者		城所久恵
	委員		嵐山光三郎
	委員		高橋宏
	教育長		是松昭一
出席職員	教育次長		宮崎宏一
	教育総務課長		川島慶之
	教育指導支援課長		金子真吾
	指導主事		荒西岳広
	指導主事		植木淳

国立市教育委員会

午後2時00分開議

○【山口委員長】 皆様、こんにちは。大変な猛暑が続いております、きょうは、八王子では37度になったという話を、先ほどしていただきましたし、また、西日本、特に四国では、大雨が続いていて、非常に、被害が心配されているところがございます。

本日は、教科書採択という、大きな、教育委員会の臨時会を、これから開催させていただきますけれども、被害が少なくすむように、また、気象が異常ですけれども、それぞれの方が、健康に留意してお過ごしいただけますように、お祈りしながら始めさせていただきたいと思えます。

本日の会議録署名委員を城所委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

○【城所委員】 はい。

○【山口委員長】 それでは、平成26年度第1回教育委員会臨時会を開催いたします。



○議題（1） 陳情第3号 国立市立小学校の社会科教科書採択に関する陳情

○【山口委員長】 初めに、本日、陳情が出ておまして、陳情第3号、国立市立小学校の社会科教科書採択に関する陳情を議題といたします。

陳情者から趣旨説明をしたいというお申し出がありますが、いかがいたしましょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 本陳情は、これから審議に入る教科書採択におきまして、特定教科の審議に、陳情者の指定する特定の視点をもって臨めという内容のものです。しかも、特定の教科書出版社名を挙げて、陳情者側からの一方的な批判を掲載しています。この陳情の趣旨説明をこの場で受けることは、これから採択に臨むに当たっての公正中立を欠くものとなり、ふさわしくありません。

また、本陳情内容も読めばわかるものですから、趣旨説明は受けることなく、すぐさま陳情の審議、採決に入っていただきたいと思えます。

○【山口委員長】 ほかにご意見等は、ございますでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 それでは、趣旨説明を受けないものとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 それでは、趣旨説明は受けずに、本陳情の審議に入りたいと思えます。

本件について、ご意見がありましたらお願いいたします。

是松教育長。

○【是松教育長】 ことに教科書採択にかかわるものについては、意見・要望として受けるには構いませんが、陳情として提出され、かつ、それが採択の採決がされますと、この後の教科書採択審議の自由な審議を制限し、公正中立を欠くものとなります。

今後においてもそうですけれども、教科書採択にかかわる陳情は、その内容がいかなるものであろうとも、当陳情の採択はせずに、公正中立な教科書採択審議に臨むべきものであるというように考えますので、本陳情も不採択とするべきものと考えます。

（「同意見です」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 それでは、採決に入らせていただきます。本陳情を不採択といたしますことで、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 陳情第3号、国立市立小学校の社会科教科書採択に関する陳情は、不採択といたします。



○議題(2) 議案第27号 平成27年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について

○【山口委員長】 それでは、議案第27号、平成27年度使用国立市立小学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

最初に、事務局から説明をお願いいたします。

金子教育指導支援課長、お願いします。

○【金子教育指導支援課長】 それでは、議案第27号、平成27年度使用国立市立小学校教科用図書の採択について、ご説明いたします。

本日は、平成27年度から平成30年度まで使用する、国立市立小学校の教科用図書の採択となります。本年度の教科用図書調査研究委員会並びに教科用図書審議会の調査及び審議経過につきましては、先に開催されました7月の定例教育委員会において、教科用図書審議会委員長から、ご報告いたしましたとおりでございます。

また、くにたち中央図書館及び国立市公民館において、6月13日から7月3日まで教科用図書展示会を実施いたしました。市民等の皆様から、16件のご意見をいただき、7月の定例教育委員会後に、資料として配付させていただいております。

それでは、ご審議のほどをよろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

ただいま、教育指導支援課長からご説明いただきました。平成27年度の小学校使用教科用図書について、審議に入りたいと思います。

今、ご説明にもありましたように、7月22日、前回の定例教育委員会で、教科用図書審議会から審議結果のご報告を受けました。

また、今もありましたように、市民16名の方から16件のご意見、アンケートをいただきました。各教育委員は審議結果やアンケートをもとに、国立市の公立小学校にふさわしい教科用図書について、考えを深めていただいたことと思います。

それでは、各教科ごとにご意見をいただきながら、平成27年度使用小学校教科用図書について、採択をしてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、初めに、国語からご意見を伺いたいと思います。

是松教育長。

○【是松教育長】 国語につきましては、5社の教科書出版社からの教科書採択ということになります。形状的には、全てB5判で統一されておりますが、東京書籍と光村図書が、5、6年生を1冊にまとめております。三省堂は分冊となっておりますが、2年生以上は、片方が学びを広げるという薄い別冊で、実質1冊になっているというところがございます。これは、審議会報告にもありましたように、常に別冊を持っていないといけないということで、多少扱いにくさがあるのではないかと感じております。

学習指導要領の教科目標として、国語は、話す・聞くこと、それから、書くこと、読むこと。こう

いった3領域構成を土台に、伝統的な言語文化に親しみ、国語の特性を理解して豊かな言語感覚を養うというところになっております。審議会の報告書のほうも、学習の見通し、それから、要点、振り返りを持った構成、あるいは、教科目標に照らした教材の選択、それから、読書活動への展開方法等についてを視点に評価をいただいているところでございます。こうした評価を総合的に見てみますと、東京書籍、あるいは光村図書という教科書が、私はいいのではと思っております。

東京書籍の場合は、2年上巻に「図書館へ行こう」というような、学校図書館に親しむ内容が入っておりますし、また、3年の上巻より、短詩形として俳句に親しもうということで、これは、小学校6年のクラス句会まで、どちらかという、短詩形の中でも俳句を中心に短詩形を扱っております。また、日本語の調べで、季節の言葉等もあって、非常によろしいかというように思います。

また、光村図書のほうですが、1年生の文字導入のテンポが、とてもスムーズでよいと思えました。それから、2年生になって「先生に読んでもらおう、昔話」ということで、「三枚のお札」や「たのきゅう」という読み聞かせの工夫もされております。東京書籍と違いまして、光村図書の場合は、短詩形も、主にどちらかという短歌が多いのかというところが、特徴だと思います。また、漢字の広場や季節の言葉の取り入れも、よいと思います。

どちらかということになるのですが、強いていえば、東京書籍のは、教材内容の取り入れや写真、イラストが豊富でございますけれども、多少豊富過ぎて、児童にとっては少し焦点が定めにくいのではないかとこのところが気になっているところでございます。強いていえば、光村図書なのかというように、私は思っております。

私からは、以上です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

是松教育長より、東京書籍、光村図書の2社、そのうち、強いていえば、光村のほうによろしいのではないかとこのご意見をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

高橋委員。

○【高橋委員】 私は、三省堂、東京書籍、光村図書と、3社の教科書の内容が充実していると思います。

三省堂のほうから話を進めますと、学びを広げるという、非常に資料が充実しているというところがいいかと。年間の学習への見通しを持たせていると思います。

それから、東京書籍のほうは、今、国語の力というのが、非常に注目されているところで、単元ごとに言葉の力として、学習の要点を明確にしている。それから、囲みの枠内を着色して、非常に子どもにとって、目立つ工夫というところが見られる。

それから、光村図書。現在も使っているという教科書で、全学年でノートを使い方、発表時のまとめ方、こういったことが示されて、学ぶほうにとってわかりやすいということ。それから、読むことの教材を多く取り入れている。それから、教科書の最初に、学習を見渡そうという部分があって、学習の見通しを持つことができる。こういったところが、評価できる点ではあります。

ただし、この3社を比べていく中で、三省堂は、2年生以上が年間1冊の教科書ということで、持ち運びには、とても厚くて重くなるということがあります。東京書籍のほうは、学習の手引きが3ページ構成で、見開き2ページのほうが、もっと見通しが持ちやすいのではないかとこのところがあります。光村図書のほうは、やはり、読むというところの教材が、非常に充実しているということから、

この3社の中では、光村図書を評価したいと思います。

○【山口委員長】 高橋委員から、光村図書のご推薦をいただきました。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 私は、東京書籍と光村図書がいいと思います。

宮沢賢治は、どの教科書にも入っているのですが、東京書籍は、5年生のところに、宮沢賢治の「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」と、新しいところに入れているのです。宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」は、「雨ニモマケズ 風ニモ負マケズ」とあって、「雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ」とあって、最後のあたりに、「ヒドリノトキハナミダヲナガシ」の「ヒドリ」を、高村光太郎は、「ヒドリ」というように直したのです。ですが、「ヒドリ」なのです。

新しい研究によると、「ヒドリ」と書いてあるのです。ですから、私はいつも、必ず、確認をしますが、文学全集でも、NHKでも、「ヒドリ」と書いてあるのです。ところが、きちんと調べたら、筑摩書房の本で、入沢さんなどが調べたら、「ヒドリ」というのは、「日当」のことなのです。

宮沢賢治に対しては、詩人としての尊敬があるのだけれども、蔑視もあるのです。高村光太郎は、高学歴で何でも知っているけれども、宮沢賢治は、田舎の教師だから、間違いだろうと思って、「ヒドリ」ということを調べようとしなくて、「ヒドリ」と定着させてしまったのです。

ですから、そこがどうなっているのかと見たら、きちんと、「ヒドリノトキハナミダヲナガシ」となっていて、編集が、非常に丁寧です。

今、光村を使っているのですか。

○【山口委員長】 はい。

○【嵐山委員】 そうですか。光村も、なかなかバランスがいいし、図版もいいし、大きさもいので、先生方が、今、光村を使っているのですしたら、最終的には、先生が使っていて、現場の先生がいいと思うのがいいです。

ですから、私は、光村か東京書籍のどちらかで、現場の先生がいいと思うのを使えばいいと思います。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

嵐山委員から、東京書籍、光村、二つを推薦をいただいて、現場の先生が使いやすいほうがよろしいのではないかとのご意見をいただきました。

城所委員。

○【城所委員】 私も、いろいろと見せていただきました。それから、審議結果の内容も、いろいろとお伺いしました。本当に、どの教科書もととてもよくできていて、見せていただいて、選ぶのが大変だったというのが、正直な印象です。その中で、言語能力など見通しの持たせ方、構成等というところで、今使っている光村をベースに、見せていただいたりしていました。

結果的には、私も光村図書か東京書籍かというところに、だんだん落ち着いてはいたのですが、光村図書のほうで、今回、新しいポイントになったというところが、各学年で、最初の説明文が必ず二つの構成になっていて、まず、一つ目で力をつけたことが、二つ目で生かせるようになっていて、前回は変わったところであるということをお伺ったので、そのように使っていくと、どんどん力がついていくのかという印象があります。

それから、全学年を通して、ノートを使い方など、発表時のまとめ方、そういうものがよく示されていることと、単元の構成もよくされていたと思います。「いつも気をつけよう」、「いつも続けよ

う」などという小さなコーナーのところで、とてもきちんとまとめて、次に行くというところが、よかったのではないかと思います。

東京書籍のほうも、他教科への振り返り例などもあって、国語なのですが、社会科のレポートの書き方であるなど、教科を横断するような内容が入っていたりして、それも発展的であると思いました。

それから、教科書の重さということが、小学生にとっては、かなり大きなところに位置するかというように思います。また、低学年は、見開きでいろいろと資料が入っていていいのですが、途中でちぎれてなくなってしまうたり、現場では、そういうことが起きているようなので、大人にとっては大したことではないことかもしれないのですが、やはり、大きさや、重さや、ページの扱いなどということも、とても重要ではないかと思わせていただきました。

以上です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

城所委員から、光村図書、東京書籍について、特に、光村図書のご推薦をいただきました。

高橋委員。

○【高橋委員】 光村が、いいということなのですが、その中で、学校現場の教える側の先生から、少し難点も指摘されていますので、紹介したいと思います。

読むことの教材を多く取り入れているけれども、教材部分は、猟師やわらぐつなど、児童の実体験からイメージしにくいものも多くあって、今の子どもにとって、イメージがしにくいという指摘もありましたので。このあたりは、今後の、どのように教科書会社に対応していくかという問題になるかと思しますので、そういう意見もありましたということ、紹介しておきます。

以上です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

では、私からも、少し国語の教科書について、述べさせていただこうと思います。

まず、全体的なのですが、ほかの教科も共通なのですが、各教科書とも、本当に工夫されて、充実した内容となっていると、全体を見て感じたところで、ご苦労されているというように思います。特に、言語活動の充実という部分で、話し合いの場面など、その他、工夫をされて、話し合いをしやすいように、アプローチの仕方は、若干違いますが、詳しく出ているという印象を持ちました。

もう一つ、いろいろな文章がたくさん出ていて、いいと思ったのですが、どの教科書も、平和に関する記述が載っているということで、これは、非常に大切な視点であるというように思ったのが、全体を通した感想です。

それから、各委員からも意見が出ており、重複する部分もあるのですが、重複しないところをできるだけと思います。

学校図書の教科書で、「保護者の方へ」というところが、教科書の後ろのほうでしたか、必ず載ってまして、保護者の方が、この教科書でこういうように教えていくのだということが、わかりやすくなっているところは、非常に注目に値するかと思います。それから、言葉についての、言葉の決まり、言葉の泉、漢字の部屋など、審議結果の報告書にも載っていたのですが、そのあたりのページがあって充実しているということなど、1年生の教科書から、「何々しよう」と、読むことをしっかり充実させようというところのイメージが、よく見られたと感じました。

三省堂のほうは、国語辞典の使い方や漢字辞典の使い方などが、かなり充実していて、詳しく書いてあって、子どもたち、児童が、高学年になったり、中学校になったりして、だんだん駆使していく

ことになるのですが、その導入のところが、しっかりされていることと、先ほどの話にもありましたけれども、「学びを広げる」という別冊があるがゆえに、資料は充実するが、その分広く、ただし、別冊を持つということの大変さも、若干あるかとも思います。

教育出版は、細かくて、児童がどういうふうを考えていったらいいのだろうかというポイントをしつかりと、特に、導き文が出た後に、学習の内容の進め方のところでわかりやすく指導ができるように書いてあるということで、丁寧に指導していくところでは、すぐれているのではないかと思います。

東京書籍は、今まで各委員からもいろいろ出ておりましたけれども、私の中で、特に感じたことは、いろいろな図書の紹介が、非常に充実しているので、本への興味を、さらに膨らませるようになっていくところがあることが、素晴らしいと思います。

光村図書は、先ほども出ていましたけれども、「学習を見渡そう」ということで、学ぶことの見通しが持てるということが、一番大きいという部分と、6年生などは、文を読んで考えさせる内容で、今度は一転、1年生は、そこから感じ取るような、絵本といたしますか、そういう心に響くようなところというものをしっかり中心に出てきて、その中で、子どもが出てくる。キャラクターではなくて、子どもたちが出てくるのは、いいと思いました。それから、季節の言葉というのがしっかり書かれているので、日本の四季をしっかりと感じられて、味わうようなこともできているところが出ていました。全体を通して、バランスとしては、光村図書がよろしいのではないかとというのが、私の感想でございます。

ほかにご意見は、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、各委員からは、光村図書、また、東京書籍という言葉が挙がったのですけれども、光村図書の声が多くございましたので、光村図書の教科書を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、国語は光村図書を採択することといたします。

続きまして、書写について、ご意見を伺いたいと思います。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 書写は、国語と同じ教科書のほうがいいと思います。ですから、光村がいいと思います。国語が決まれば、前もそうだったと思います。

○【山口委員長】 嵐山委員から、審議会の結果報告書にも、国語と書写の教科書は、同一会社が適切だと思うのですけれども、同一会社がよろしいのではないかとということで、光村図書のご推薦がございました。

○【高橋委員】 同意見です。

○【山口委員長】 城所委員。

○【城所委員】 同一の教科書がいいということで、審議会の報告が挙がっていましたが、全ての教科書を見せていただいた感想を、述べたいと思います。

書写は、心を落ち着けて、ゆっくり墨をすって、硬筆、書写に向かうという時間だと思うので、楽しく、キャラクターが工夫されていたりと、いろいろなことがなされていたのですが、やはり、全体を見せていただいても、光村の教科書が、一番しっとりした感じで、教科書のしつらえも、静かに向かえるような感じの構成にもなっているところ、同一教科書にはなりますが、光村の教科書

が一番よかったです。

各会社も、いろいろと工夫をされていて、筆の運びのところに音を入れて、筆を運ばせるような工夫など、いろいろな工夫がそれぞれなされていたところは、とてもよかったですと思います。

以上です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

是松教育長。

○【是松教育長】 審議会報告の中でも、現場では、国語と書写の教科書は、系統性等を考えて同一出版社が適当ではないかという意見をいただいておりますので、光村でいいと思います。実際に、今回の6社の教科書を見てみましたが、書写の場合は、文字を理解し、文字に親しむということが、大きな目標です。その中で、個別的には、文字を書く基礎となる姿勢や、あるいは、筆記具の持ち方、筆順を学んでいく。また、文字群です。文字の集まりをどう書いていくかという書き方を、学んでいく。そして、さまざまな文字を書く場面があるのですが、目的に応じた書き方をしっかり学んでいくということになります。

審議会でも、そのための学習の見通しや筆づかい、それから、そのための各学年ごとの全体構成というようなものを見て、評価をしてきていただきました。そうした中で、光村図書については、各学年における指導内容に、とても工夫があるとも思っております。1年生では、例えば、片仮名の書き方が出てきたり、とめ、はね、はらい、おれ、まがり、そりなども、わかりやすく説明されています。3年生になりますと、筆づかいが出てくるのですが、穂先の向き、位置、形といったものも、教科書でしっかり確認することができました。4年生では、漢字同士の大きさの比較が出ていて、それもわかりやすいと思います。5年生になりますと、書くときの早さや、どうやったら素早く書きとめられるかというような技術的な、テクニク的なことも、とてもよく教科書に載せられておりましたので、私も、書写についても、光村図書でいいと思います。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

私からも一言です。私も、国語と同一のものがよろしいと思うので、光村図書を推薦いたします。

それから、ほかの教科書会社のもので、目にとまったものは、東京書籍なのですが、「できたよ！しいる（シール）」のようなものがありまして、特に、小さい子どもにとってみると、とてもやる気を起こさせるところもあるのではないかということと、本の大きさも、一回り大きかったと思うので、そこを有効に利用して、使いやすくされているのではないかということを思いました。

それから、三省堂は、指でなぞって動かし方の練習をしたり、各教科書会社の工夫を感じたところ です。全ての会社ですが、毎学年とも書く姿勢のところはきちんとしていて、基本のところをしっかりと押さえられているというような感想を持ったところでございます。

ほかによろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 それでは、書写につきましては、光村図書を採択することで、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○【山口委員長】 それでは、書写は光村図書を採択することといたします。

続きまして、社会に移ります。社会は全部で、4社の教科書がございます。

ご意見いかがでしょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 では、私から。社会は、4社です。4社とも、A B判でございまして、光村図書のみが、5、6年生を1冊というようにまとめております。社会の場合は、小学校3年生から使う教科書ということで、3、4年で社会生活を理解する。5、6年生からは、我が国の国土と歴史を理解する。特に、国際社会、平和で民主的な国家社会の形成者として必要な国民的資質の基礎を養うということが、学習指導要領の教科目標になっております。

この中で、見通しや要点、振り返り等、身の回りの地域社会から日本の社会、そして、国際社会への展開性、あるいは、単元のつながりや関連性、それから、地図やグラフなど資料の活用、工夫、領土の表記というようなところの内容でいきますと、東京書籍と教育出版が、よくつくられているように思いました。

東京書籍は、社会科図鑑のような趣でして、この東京書籍の編集の特徴としては、情報量が常に多い教科書なのですが、そういう意味では、あらゆる資料が載っていて、資料性が高いといえますか、多いのですが、多過ぎて、児童・生徒には少し落ち着かないのではないかという気がしますし、また、教員も、この資料全てに触れるには、時間内には難しいので、といっても資料がある以上は触れないということにもいかないというところで、戸惑うといえますか、多少、選択に困難さがあるのではというような感じを持っております。

一方、教育出版ですけれども、つかむ、あるいは、調べる、まとめる、深めるといった学習過程の示唆があったり、児童の考えを深めさせるための作業を促すような内容があったり、いわゆる、問題解決型の指導に適した部分も多いということを感じました。

したがって、この4社の中では、教育出版がよいのではないかと思います。

○【山口委員長】 是松教育長から、東京書籍及び教育出版、2社をピックアップして、特に、教育出版のほうに適しているのではないかというご意見がありました。

高橋委員。

○【高橋委員】 4社を詳しく見ていきますと、まず、国立市の教育は、問題解決学習ということを重視していますので、その観点から、どの教科書がふさわしいかということを見ました。

まずは、東京書籍。見開きごとに、つかむ、調べる、まとめるということが、非常にはっきりと記載されていて、問題解決的な構成ということが見て取れます。

教育出版。各単元のつながり、関連性と、それから、各学年とも地図やグラフなど、資料活用という技能の系統性が、非常に重視されている。自分で調べるといって、非常に問題解決に通じていく構成ということが見て取れます。

それから、光村図書。見つける、調べる、まとめるという問題解決型の学習の進め方について、解説しているページがあるということです。

それから、日本文教。これは、問題解決的な学習を促す記述というのがなかなか見られない。

こういうところが、はっきりしているところです。

それから、戦争についてどのように記述しているかということで、東京書籍は、中国との戦争から太平洋戦争へと詳しく記述があり、朝鮮や中国の人たちの立場で書かれている内容もある。

教育出版。全学年を通じて、うまく内容の選択を指示し、無理なく学習できる内容。そして、北方領土、竹島など、見開きを使って丁寧に説明している。中国との戦争から太平洋戦争へと詳しく、こちらの教育出版も記述されて、朝鮮や中国の人たちの立場で書かれている内容もある。

それから、光村。中国との戦争から太平洋戦争へと詳しく記述されているけれども、中国の人たちの立場で書かれている内容はない。

というようにところから、全体を通して、今、使っている教科書、教育出版が妥当であるというように感想です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

高橋委員から、四つの教科書全部を比較していただいて、審議会の結果の報告等も取り入れながら、全体を通して、教育出版がよろしいのではないかとのご意見をいただきました。

城所委員。

○【城所委員】 社会を見せていただきました。まず、国立市で、今、中心的にやっている問題解決型というところの視点で見えていきますと、教育出版、東京書籍、光村図書というように挙がってくるのではないかと思います。

先ほど高橋委員もおっしゃったように、東京書籍のほうでは、見開きごとに、つかむ、調べる、まとめるということが明記してあって、問題解決的な構成となっていて、さらに、生かすというところで、社会参画や日常生活に結びつけるというように、そこまで引っ張っているところが特徴であると思いました。ただし、学習計画を立てよう、調べよう、まとめ方という、ある型のようなものが記入してあるので、それが子どもたちを導き過ぎるきらいがあるのではと、少し印象的に思いました。

逆に、教育出版のほうも、つかむ、調べる、まとめる、深めるといように、解説ページがあるのですが、こちらのほうが、児童が自分で問題解決をしていくというように促していくつくりになっていると思いました。こちらの教育出版は、先ほど高橋委員がおっしゃったように、全学年を通して選択という内容がありまして、そこで無理なく学習をしていって、深めるというところが特徴的であると思いました。そして、まとめる、深めるということが、各單元ごとにあって、巻末にも索引や振り返りページが充実していて、学習が終わった後に使ったり、学習中に使ったりということで、基礎、基本的なところに触れて、習得しようというところがよかったのではないかと思います。

それから、社会は3年生から始まるのですが、自分たちのまち、もう少し広がって、県、外国とのやりとりと、だんだんと広がっていくのですけれども、日本文教は、地域が西日本から始まるので、3年生の子どもたちには、印象的に遠いのかと思いました。

そうなりますと、教育出版が、一番身近なまちからだんだんに広がって行って、4年生で世界へというように系統立っているところが見て取れました。

光村図書は、個人的には好きだったのですが、全体的に、本文がほかの会社よりは少な目で、説明などが少ないのですが、逆に、雰囲気の世界に導いていこうというような、国語の本といいますか、物語的といいますか、そういう印象が少しあって、自分たちで考えてその世界に入っていくって、学びを深めようというところをされているのではないかと印象でした。

(傍聴者席から、「もうちょっと、大きい声でと…」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 気にしないでください。不規則発言は、やめてください。

○【城所委員】 それから、光村の絵や写真で、単元の切りかえなどにコントラストがあったりして、インパクトがあったというように思います。そして、写真の構成の仕方が、ほかの会社と違って、とても効果的に使われている写真があったり、例えば、東大寺の写真が、大仏ではなくて全体の写真の中に仏像があるなど、カット割などが少し違うものがあるというように思いました。

全体的なバランスを見せていただき、問題解決型等を重視しますと、教育出版の教科書がいいので

はないかと思えます。

以上です。

○【山口委員長】 城所委員から、全ての教科書についてのコメントをいただきました。全般としては、教育出版がよろしいのではないかというご意見をいただきました。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 私は、東京書籍が好きなのですが、教育出版か東京書籍のどちらでも、両方ともいいです。

○【山口委員長】 嵐山委員から、東京書籍と教育出版の2社のご推薦をいただきました。

私からも、意見を言わせていただこうと思います。全ての教科書が、最初のところで、考え方の流れで、問題解決型の学びをしていくというところで、「こういうように勉強していきます」と、最初のあたりのページに出ていて、一番わかりやすいのは、日本文教ではないかと思いました。

光村図書も、わかりやすく書かれていると思ったところがあります。

ただし、東京書籍や教育出版は、実際の単元の中で、しっかり学べるような流れになっているということをととても感じまして、その2社の教科書が、その流れに沿っているというように感じたところがございます。

それから、日本文教出版は、写真や図が大きく、カラフルで、とても見やすいし、明確に区分されていてわかりやすいところがある。ちょっとしたせりふが出たり、わかりやすいポイントが使われているというように思いました。

光村図書は、字が大きくて見やすい。先ほど城所委員が言われたのですけれども、言葉はそれほど多くはなくて、考えさせるようになっている。そして、言葉で、見つける、調べるなど、「ホップ、ステップ、ジャンプ」という言葉が出てきて、何か子どもたちが乗ってきそうな雰囲気を持っている構成になっていると思いました。

東京書籍で少し思ったことは、6年生の年表ですか、出ているところで、世界との比較が出てきて、ほかの会社には世界というところはなく、アジアなどになっていたと思うのですが、そういう視点が出ているのは、いいのではというようなことや、単元ごとに、最後にまとめて、自分自身が意見を書くコーナーが、教科書の中にあるということも、深められるところがあると思います。ただし、その分、内容が深く、大変さを伴う部分もあるのではないかと思います。

教育出版は、イメージとすると、一番、学習の流れがしっかりこの教科書の単元の中で深められるようにつくられているというように思いました。それから、最後の「まとめる」のところで、何の勉強をしたかというポイントが、とてもつかみやすくできている。とても丁寧で、「これだけは覚えておきなさい」、「こういうところが大切です」というようなことが出ているのは、子どもにとっては、非常にありがたいのではないかと思います。使いやすいというように思いました。

全ての教科書を通してなのですが、日本の憲法、平和主義のことであるなど、憲法のこと、人権のことなどが、しっかり触れているというように、とても思いました。これは、しっかり守っていただいて、うれしいと思います。

教育出版の教科書の中で、少し思ったことは、「五日市憲法」、大日本帝国憲法ができるときに参考とされた、あきる野市でつくられた「五日市憲法」のことが出ているのが、ここは国立市ですので、あきる野市はとても近いので、子どもたちが関心を持てると、明治の時代にそこまで考えていたのだということがあるというのは、深めるポイントになるのではないかと思います。

は国立市だからということで、一つ思ったところではございます。

私も、そういうところでも、教育出版を推薦いたします。

ほかには、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、社会については、皆様のご意見を承りまして、教育出版を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、社会は教育出版を採択することといたします。

続いて、地図帳に移ります。地図帳は、2社が出ております。

○【嵐山委員】 地図帳は、帝国書院です。

○【山口委員長】 地図帳は、帝国書院ということで、嵐山委員からご意見がありました。

高橋委員。

○【高橋委員】 東京書籍と帝国書院の2社ということで、東京書籍は、非常に資料が豊富である。ただし、他社に比べてA判ということで大きくなっている。子どもが持ち運ぶのには、重くなるというところがあります。

それから、帝国書院は、文字が国語で学ぶ書体に合わせているので、非常に読みやすいというところと、学習に効果的であるという評価ができるかと思います。それから、文字の大きさということにとっても軽重をつけていて、読みやすい。それから、竹島や尖閣諸島についても、写真つきで解説しているというようなことから、帝国書院がいいのではないかと思います。以上です。

○【山口委員長】 高橋委員から、帝国書院の推薦がございました。

よろしいですか。

是松教育長。

○【是松教育長】 私も、帝国書院でよろしいかと思います。特に、今回、領土の問題があるのですが、帝国書院の場合、冒頭のところで、日本を取り巻く国々と、その領海ということが、非常にわかりやすいのと、日本の東西南北の果てがどこにあるのかということが、しっかり書かれているのです。それから、そういう意味では、領土が明快でわかりやすいということで、帝国書院がよろしいかと思えます。

○【山口委員長】 是松教育長から、帝国書院のご推薦をいただきました。

城所委員。

○【城所委員】 2社、見せていただきました。東京書籍は、内容にとってもボリュームがあって、地図というよりも資料集のような印象を受けました。ただし、少し内容が多過ぎて、地図を見るときにいろいろなものが、一緒に目に飛び込んでくるような印象がありました。サイズも少し大きいので、もし、授業中に使うとしたら、サイズは、小さ目の帝国書院のほうが扱いもいいと思いました。文字は、帝国書院のほうが、地図帳として使うには、見やすいというような印象があります。

それから、どちらも防災マップが入っていたり、新しいものがいろいろと組み入れられたということで、お聞きしています。

私は、帝国書院のほうがいいと思います。

○【山口委員長】 城所委員からも、帝国書院をご推薦いただきました。

私のからの感想を言わせていただきます。地図帳のポイントは、私自身が思ったのですけれども、

社会科、ほかの教科でも使う可能性があると思うのですが、地図帳を自由自在に、いろいろと、必要などきに使いこなせるようになっていくということで、小学生では、スタートのスタートではないかと思えます。そういう意味で、地図として見ると、どうしても帝国書院の地図のほうが見やすいという感触を受けてしまうところがあります。いわゆる、地図を見るという感じが強調されているので、いいと思いました。

ただし、東京書籍は、一回り大きいというところでは、持ちにくいという意見もあるのですが、もう一方でいうと、大きい分、見やすいという感触をととても受けますし、データが表組してあるところなどは、大きい分、とても見やすくなっているということがあります。また、地図の中に、キャラクターが時々いまして、楽しいという雰囲気を感じたところもあります。

帝国書院は、江戸の図が出ているので、現在と江戸時代を比較できたり、高低差がわかるような地図もあったりして、国立市、東京都の中ですけれども、多摩エリアに所属している学校とすると、今後は、東京の西地区の一部として、こういう図が出ていることはいいと思えます。それから、資料も見ていくと、帝国書院のほうが、細かく出ているところもあるというようなことを思いまして、実際に、資料を調べるときに、両方とも有効活用できるのではということも思ったところがございます。

そういうところで、総合的に、帝国書院がよろしいのではないかという意見を持ちました。

よろしいですか。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 はい。帝国書院の地図は、40歳、50歳になっても使うことがあります。地図は、ほかにも持っているのだけれども、これは、持ちやすくて、ぼろぼろになっても、帝国書院の地図には、恩義がありますし、便利なのです。

南アフリカなども、今、エボラ熱が出ているところはここかというように、いろいろと調べられて、それから、南米など、あまり行ったことがない、わからないところでも、よくできた地図で、小学生のとき、この地図を見て、いろいろなところ、ここに行きたいと思いました。カナダのバンクーバーには、サーモンなどと、わかりやすい絵も出ていますし。

○【高橋委員】 そうですね。

○【山口委員長】 よろしいでしょうか。

○【嵐山委員】 はい。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

それでは、地図帳については、帝国書院を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、地図帳は帝国書院を採択することといたします。

続きまして、算数について、ご意見を承りたいと思います。

高橋委員。

○【高橋委員】 算数は、6社あります。どの教科書会社も、非常によく工夫されているというように思えます。

まず、東京書籍ですが、2年生では、100より大きな数を学習するときに使用する数字カードがとじ込まれていて、教科書どおりの操作をそのままできるという、一つのよさがあります。それから、6年生の巻末に、中学校の学習内容が盛り込まれているということから、小学校から中学校へと無理なく進めるような工夫もあります。

ほかの教科書会社にもあります。

6年生、対称の巻末指導では、トレーシングペーパーに、対称な図形が印刷されているということから、算数的な活動に活用しやすく、子どもにとって、児童にとって、対称というのは、非常に難しい学習ですけれども、とても配慮されていると思います。

大日本図書。巻末に、「教科書に出てきた大切な事柄」というところがありまして、言葉や記号、計算の仕方、図の書き方ということを調べることができる索引がついているということから、非常にいいと思います。それから、行間、余白も適当で、見やすくなっているということがあります。ただし、九九一覧表が巻末にあるのですが、裏面は別の単元の教材になっているということから、実際に活用するということが、少し難しい点もあります。

学校図書。説明や解説が、非常に丁寧である。ただし、問題解決の力を育てるには、使い方の工夫が必要ではないかと思います。それから、円の面積の公式を、「円の面積＝半径×半径×3.14」と示しているのですが、他社は、「半径×半径×円周率」と、この「円周率」というのが、妥当であるのではないかと思います。

教育出版。穴埋めが多くて、教科書の空欄に、直接書き込みをして考え方を習得できるようになっている点が、評価できる。それから、円の面積では、1センチ升で、実物大の半径10センチの円が印刷され、折り込まれている。ただし、6年生でのおおよその面積を求めるところでは、横浜市の地図から面積を求めるようになっているのですが、なかなか、横浜市の地図を、いわゆる図形に当てはめるということは、少し難しいのではないかと思います。

それから、啓林館。5、6年生の巻頭に、「算数から仕事へ」というコーナーがあって、児童の学習への意欲を高める、そういった工夫が見られると。ただし、単元の初めに、関連する既習事項を確認することのできる資料や問題が少ない。それから、1年生では絵が多く使われているのですが、言葉による説明が少なく、わかりにくいのではないかと思います。

日本文教。こちらは、上巻巻頭に、ノートの記入例が示されていて、指導する側にとっては、活用しやすい。ただし、巻末に学習したことを確かめるという練習問題が出ているのですが、問題数が、少し小さい。それから、教科書の横幅が他社に比べて大きいということも、少し難点があると思います。

全体を通して、東京書籍が評価できるのではないかと感じました。

以上です。

○【山口委員長】 高橋委員から、各会社の教科書のポイントをご説明いただき、最終的には、東京書籍をご推薦いただきました。

いかがでしょうか。

城所委員。

○【城所委員】 では、高橋委員と重複しないところで、お伝えしたいところがあります。算数は、抽象的な数の世界に入っていくというところで、学年が小さければ小さいほど、具体物を示して、身の回りにあるものから入っていったほうが、自分自身に切迫して、自分のこととして考えていけるのではないかなというところが、1点、大きいところだと思います。そうしますと、中にいろいろな資料を各会社とも使っているのですけれども、例えば、足し算でしたら、自分でお金を出して買えるようなお菓子の写真であったり、そういうもののほうがよりいいのではないかなというようなことです。

そうなりますと、全体的な資料を見ていくと、東京書籍が、一番子どもたちの身の回りにあるもの

で表現されているような印象がありました。

大日本図書も、1キログラムの勉強のところ、具体的に小麦粉の袋や砂糖の袋などというものを使われているところも、とてもよかったように思います。

それから、問題解決型ということで教科書を見せていただくと、自分で解決していくように導いてある教科書から、少し丁寧過ぎて、もう既に問題も書かれていて、それを子どもたちが順を追ってやっていくという教科書もあつたりと、少しの差なのですけれども、そういうように、いろいろと見受けられました。

日本文教もサイズが大きくて、ゆったりしていて、書き込みやヒントもとてもよかったのですが、少し大きくて、毎日持って行く教科書となると、どうかというところが引かかった点です。

それから、教科書を構成する全体のバランスや、キャラクターなど、いろいろと各社が使われているのですが、あまりたくさん盛り込んでいくと、どこを一番大事にしていくところなのか、どこがまとめなのかというところが、少し見えづらくなってくるような印象がある会社もありました。

本当に、小さなところなのですけれども、まとめのところをぱっと開けると、色で書かれていたり、余計なものが入ってこないということも、算数の中では大きいのではと思います。

各社、細々とはお話ししましたが、全体のバランスを見ると、私は、東京書籍の教科書が、一番いいのではないかと思います。

以上です。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

城所委員からも、最終的に、東京書籍が一番使いやすいのではないかとのご推薦をいただきました。

是松教育長。

○【是松教育長】 算数の教科目標では、数量や図形の意味を実感をもって捉えて、思考力、判断力、表現力を高める。それから、楽しい、わかりやすい、感動あるものとしていくということが、教科の目標になっております。

私も、そういった意味では、東京書籍がいいと思います。先ほど、高橋委員、城所委員からもありましたように、数や図形の導入部分で、子どもの関心を引くいろいろなどじ込み等の工夫が多いというように感じました。何よりも、小学校の算数から中学生の数学へという、円滑な接続を意図したつくりが高学年でされているというところもよろしいかと思います。

以上のことから、東京書籍がいいと思います。

○【山口委員長】 是松教育長からも、東京書籍のご推薦をいただきました。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 私も、東京書籍です。

今、5年生のところを解こうと思ったら、わからなくなってしまった。5年生になると、難しいですね。

○【山口委員長】 今、子どもたちが習っている内容が、さらに変わりながらも、難しくなっているという実感があります。

私からも、感想を述べさせていただこうと思います。算数というのは、具体的な生活の場面から、先ほど城所委員が言われたイメージといいますか、創造といいますか、頭の中で考えるところに転換していく難しさを持っているのだろうというように思います。けれども、その中で、小学生なので、

生活の場面でどういように設定されるのかということ、非常に大きいということと、それで、算数に興味を持って行くということも生まれるのではないかと思うので、そういう部分で興味を持って学び、基礎的な能力をきちんと身に付けて、中学校へつないでいくということというように考えました。

というところで、各教科書会社、各教科書とも、いわゆる実際の生活の場面を設定した問題が多く出ている。いろいろなところで、具体的例のところ、そういうように、とても感じたので、苦勞をされているのだと思いました。

それから、もう一つ、算数で難しいのは、私もそうですが、ノートを取るということが取りにくいのですが、「こういうように取ったらいいよ」ということが、非常に丁寧に書かれているということを感じて持ちました。先生方が、それをどのように使うのか、使いやすいのかということがポイントになると思うのですが、そういう点で各会社を見ていきまして、まず、日本文教出版は、先ほども出ていましたけれども、一回り大きいというところで、その分、持ち運びが大変なのですけれども、見やすい部分もあるということと、「学び方ガイド」等も出ていて、丁寧に、学びの方向性を示している。

会社が多いので簡単になってしましますが、啓林館も、絵をよく使われて、1年生は、そこから導入をされていて、保護者の方へということが、先ほども、違う会社の違う教科でも言いましたけれども、保護者の方へということが、学習内容の狙いなど、しっかり書かれているということで、保護者にとっても、目線が当たっているということは、必要なだと思います。そして、5、6年生などは、「算数から仕事へ」というコーナーで、少し先のキャリアというのですか、そういうところまで、視点を当てた記述があるというのには、目を引きました。

大日本図書は、全学年1冊ずつなのではけれども、一番最後に、各会社もあるのですが、索引的なところ、教科書に出てきた大切な事柄というところで、非常に詳しく出ているということがありまして、これは、使い勝手がいいのではないかとこのように思います。それから、「算数玉手箱」や、「わくわく算数ミュージアム」など、発展的なところも出ていて、ここは、問題が色分けしてあったのですが、これが問題なのだということが、とてもわかりやすかったです。

学校図書も、実際に、よく使う考え方が最初に出ているので、わかりやすいという部分と、こちら、6年生の別冊で、中学校への架け橋ということで、少し次への勉強をわくわくさせるような内容が出ているのは、いいと思いました。

教育出版は、とても丁寧に、よくつまずいている子どもにもわかりやすく、丁寧な、興味を持つような内容になっている。「算数ワールド」というようなところで、楽しく導入ができるような工夫もされているのを感じました。

最後になりますけれども、東京書籍です。こちらを推薦しようと思うのですが、先ほども出ていましたが、実際の生活の場面での例が、子どもにとって身近なもの、お菓子の場面で、「いくら」のような、実際に自分が接しているところが出てきてわかりやすいのと、もう一つは、この単元で習った大切なまとめというところが載っていたのですが、それが、色がついていたものですから、教科書をぱっと開いたときに、ここが大事ですということが、とても指導しやすいと、これは、審議会の結果報告でも、先生方が言われていたのですが、そういうところというのは、指導しやすさにつながってくるのかというように思いました。

それから、発展問題などの難しい問題は、教科書の最後のほうにまとめてあるので、単元よりも最

後になっているので、少しできてしまっている子にとっても、最後にまとめてやるということの配慮ができているのは、いいと思いました。また、巻末に振り返りがあるって、ポイントがしっかりまとめられていて、全体として、学びやすい構成になっているというようなことを感じたので、東京書籍を推薦したいと思います。

ほかにご意見は、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、算数については、東京書籍を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、算数は東京書籍を採択することにいたします。

○【宮崎教育次長】 委員長。

○【山口委員長】 宮崎教育次長。

○【宮崎教育次長】 1時間を経過しておりますので、10分程度、休憩を取ったらいかがでしょうか。

○【山口委員長】 はい。10分程度、休憩とします。こちらの時計で、15分まで休憩を取りまして、スタートとすることになります。

では、10分ほど休憩いたします。

午後3時06分休憩

午後3時16分再開

○【山口委員長】 それでは、休憩を閉じまして、委員会を再開したいと思います。

続きまして、理科について、ご意見を承りたいと思います。

高橋委員。

○【高橋委員】 理科は、5社があります。5社を見まして、まず、東京書籍です。各単元に問題、予想、実験結果と、非常に明確に構成されています。こういうところは、評価できると思います。ただし、実験に使用する実験機器の大きさや、薬剤の量など、条件が限定されているというところがありまして、これが、児童の幅広い思考を妨げているのではないかという意見もありまして、分かれるところだとは思いますが、そういうところが目についたところですね。5年生は、天気を扱っていますが、複数単元を同時進行で進められるというところがあります。それから、見開きにしたとき、結論が次ページにあるので、児童が興味を持って学習に取り組めると思います。

理科の場合は、もちろん問題解決学習に適した教科書を選定するという目的があります。どの教科書も、非常によく工夫はされているというようには感じるところです。ただし、生物教材、いわゆる、地学教材、そして物理、化学といった4分野の教材が、どこを重点にしているかということは、それぞれ教科書会社の特徴がありまして、では、現場では、どういう教科書が使いやすいのか。学校では、どういう教科書が使いやすいのかということを考えていきますと、大日本図書。同じく、5年、天気を初めに持ってきて、複数単元を同時進行で進められる。その後、台風の単元を持ってきているので、扱いやすいという評価があります。各学年、全て、冒頭に問題解決学習の流れとノートの書き方が記載してあるので、わかりやすいということが言えます。ただし、難点としては、電流に関して、「大きさ」というように表記している。学習指導要領では、電流は、「強さ」と表記されているので、学習指導要領とは、違うということがはっきりしています。

それから、学校図書。問題、実験、結果、まとめと、その流れが、少しわかりづらい。これは、意図しているのですけれども、少しわかりづらいです。それから、3年生の問題で、「どのように」、

「なぜ」などというところが、とても多くなっていて、児童の言葉で、結論をまとめるということが、非常に難しいのではないかという感想です。ただし、見開きにしたとき、結論は次のページにあるということで、すぐ結論がわからないというところは、非常によくできていると思います。

それから、教育出版。こちらは、各学年とも、冒頭に問題解決学習の流れとノートの書き方が記載してあるので、学年でどのような力を育てる能力に重点を置いているということが、非常にわかりやすいという点があります。それから、同じように、見開きにしたときに、結論が次のページにあるので、すぐに結論がわからないという点でも工夫されている。

最後に、啓林館。各学年とも、冒頭に問題解決学習の流れを記載しているのですが、学年で育てる能力に関する記述というのが、やや不明確であるというように思います。見開きにしたとき、結論が次ページにあるから、こちらもすぐに結論がわからないという点では、非常によくできている。

多くの教科書会社が、理科の場合には、結論がすぐわかってしまうと困るので、そういった工夫はされている。

ただし、現在使用している教育出版の教科書に比べて、単元配列、内容構成に違いがあって、児童が戸惑う可能性も否定できないのではないかと思います。

そのような感想を持ちまして、今現在使われている、教育出版が妥当ではないかと思います。

以上です。

○【山口委員長】 高橋委員から、各教科書のコメントをいただきまして、現在使われている、教育出版がよろしいのではないかというご推薦をいただきました。

ほかにいかがでしょうか、5社あります。

是松教育長。

○【是松教育長】 私は、ことし、東京都の理数教育推進本部会議の委員を引き受けることになりまして、そういった会議に出席しているのでございますけれども、東京都の理数教育におきまして、今、小学校の理科、それから、中学校の数学並びに理科に課題があるということで、東京都としても、理数教育をいかに発展させるかということで、そうした推進本部会議というものを設けているのでございます。

その中で、やはり、課題となっているのが、いかに子どもたちに科学への興味や夢を植えつけていくか。子どもたちの心の中に醸成していくかということをもっとやっていかなければならないだろうというように言われています。

それから、もう一点、特に小学校の理科教育においては、小学校の教科が全科でありまして、専科ではないということで、どの先生も理科教育を行わなければならないわけなのですが、学生時代に理科を専攻していた先生、あるいは研究会等で理科を中心に活動していた教員が、非常に少ないということで、ある意味、理科指導については、苦手分野の教員が多いという中で、教員指導をどう行っていくかということが課題だと言われています。

したがって、教科書選択においても、子どもたちの科学への興味を醸成する教科書、あわせて、教員の指導を助けていく教科書が必要だとも言われています。

こうした中で、私は、5社の中では、編集や構成からすると、非常に、学びのめあてと展開が明確な大日本図書がいいというように思うのです。中学校の理科教科書採択は、確か、大日本図書だったと思います。そういった意味では、大日本図書は、中学校への継続ということでもいいのではないかと思います。今ここで、大日本図書にしてしまうということはいかがなものか、先ほどの、教

員の理科指導の面で、前回、小学校は、教育出版を採択しております。これは、教育出版が、先ほど高橋委員からもあったように、問題解決型の教科書であって、問題解決のための見通しのヒントもしっかり書かれているし、目的意識を持たした取り組みが行えるような教科書になっているということで、国立市の理科教育においては、この問題解決型を重視するというので、教育出版を採択しております。

学習指導要領が変わって、最初の採択が教育出版ということで、引き続き2回目の採択でございます。学習指導要領自体が大きく変わっていない中で、この教育出版の教科書をもとに指導方法の研究が各学校で進められておりますし、指導方法の継続と定着という面で考えますと、教科書をかえて、理科教育指導に変化、混乱が来さないとも限りません。そういった意味では、もう一度、再度、教育出版を採択して、さらなる理科教育指導の研究の継続と定着を、現場において取り組んでいただく必要があるというように思いますので、教育出版でよろしいかと思えます。

○【山口委員長】 是松教育長から、理数教育についての全体的な考え方、その中での選び方、大日本図書のよさを含めつつも、現在使っている教育出版の継続がよろしいのではないかとのご推薦をいただきました。

城所委員。

○【城所委員】 理科は、今、国立市では、問題解決型をベースとして、ほかの教科に広げていくというような流れができてきているところだと思います。どの教科書も、問題解決型の表記にはなっているのですが、その中でも、教育出版と大日本図書の2社が、全体的なバランスがいいというように見せていただきました。ただし、今、是松教育長がおっしゃったように、先生方の中で理科が得意な方とそうでない方と、そして、経験年数の差がある中で、今、なじみのある教育出版をもう一度採択して、理科教育のベースを、国立市でつくったほうがいいのではないかとというような思いもあります。

構成も、見せていただくと、大日本図書のほうが、中身のボリュームや吹き出しがいろいろとあって、少し目移りするかというような印象もあります。

教育出版のほうが、構成上、流れが見えやすく、ページの余白もあるということで、教える教員側のほうでも、余裕を持って、資料として使えるのではないかとということと、子どもたち自身も目移りせずに、今どこに、どのように流れを持ってやっているのかというところで、学べるのではないかと思います。

どの教科書も、歴史上の人物が出てきていたり、日常のことがいろいろと入り込んだり、理科というものが、日常、身近なものになって、そこから、「面白いのだよ」、「入れるのだよ」ということがたくさん示してあって、本当に、今、理科教育が問題になっているのだという印象を受けました。

そのような理由で、教育出版を、再度使ってみてはいかがではないかというように思っております。以上です。

○【山口委員長】 城所委員からも、教育出版をご推薦いただきました。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 今も、教育出版の教科書で指導しているのですから、それが一番現実的だと思います。教育出版のこの人体のところは、リアルで、ずっと見てしまいました。観音開きになっているのですが、なるほどと思って、非常にリアルですね。

それから、理科を教えなければいけないということは、小学校の先生は、専門ではないので、大変だと思います。

やはり、教育出版がいいのではないですか。

○【山口委員長】 嵐山委員からも、教育出版ということです。

皆様方からも、継続性の重視ということが、重要だということもありました。

私も、基本的には、現在の理科の授業を見させていただく中で、本当に、教科書を使いこなしながら進められて、研究も進んでいるという印象を、国立市の学校では持っていると思いますので、継続性は、非常に大きいと思います。

それから、それを除いても、実際に、問題解決型の学習の流れは、全ての教科書の最初のところに書いてあるのですけれども、見比べたときに、子どもたちが見たときのイメージは、教育出版のが、一番具体的に、イメージがしやすく書いてあります。実際の例が出ていて、それが、非常に具体的だったのです。ほかの教科書は、考え方が書いてあるところが多かったと思うので、子どもにとってみると、そこでのイメージは、先生の指導にもよるのですが、つくらせやすいのではないかと思います。

それから、もちろん各教科書会社とも、わくわくするような、「わくわく理科プラス」は、啓林館でしたが、先生からのアドバイスがついているのは、学校図書で、写真などの内容説明が工夫されているところは、大日本図書で評価も高かったですし、使用しやすいかとも思いました。東京書籍も、巻末資料にまとめがあって、使いやすいところもあり、各教科書会社もいろいろと工夫して、全ての教科書をあわせると、もっとよくなるのではないかという感想を持ちながら、継続性等々も含めて、使いやすさ、子どもたちの状況を考えて、教育出版がよろしいかと思えます。

それでは、理科については、教育出版を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 では、理科は教育出版を採択することといたします。

続きまして、生活についてに移ります。生活は、一番多くて、7社が教科書をつくられております。多いですけれども、よろしく願いいたします。生活です。

生活は、1年生と2年生になります。最初の勉強ということで、小学校に入って、最初に学校生活になれたり、自然、理科や社会、地域環境などと触れ合うところ、最初、スタートの重要な教科となりますけれども、いかがでしょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 今、委員長がおっしゃられたように、1、2年生の使う教科書ということで、形状は、ほぼどれもA B判ですが、学校図書のみがA 4判で、若干縦の幅が広いということになっていますが、それほど極端に大きいものではないので、どの教科書も変わらないと思います。1、2年生が使用するため、全て2分冊というようになって、重さも工夫してあるというのは、統一したところだと思います。

生活の場合は、自分の生活について考えさせて、生活上必要な習慣や技能を身につけさせる。そして、自立の基礎を養っていくことを目標にしております。楽しくて、みずから学べる配慮や、具体的な体験の配慮、豊かな気づきを視点に、審議会からも報告をいただいております。報告の中では、東京書籍と教育出版が、この点の配慮、工夫の評価が高いということになるので、どちらかではというように思います。

1、2年が使う本なので、使い勝手、わかりやすさが必要なのですが、教育出版は、ごらんになった委員の方も気がついたかもしれませんが、1年生の上の真ん中に、「種になってみよう」というホ

ログラム写真が入っているのです。ちょうど真ん中ぐらいです。これは、材質が硬いので、教科書を開こうとしたら、必ずそのページが開いてしまうのです。教育出版の1年生の上です。そこから、前のページを開こうと思ったら、私は右利きですけれども、右ではなかなか開けなくて、左手を使って開かなければならないので、1年生にとってみたら、本を開くときに、その都度、開きづらさを感じるのではないかというように思いました。

東京書籍は、そういうところはなく、東京書籍で感心したところは、通学路の安全について、ページを割いて、とても丁寧に説明しています。今、我々も、小学校1年生の生活指導の中で、学校の登下校の安全ということを、各学校とも非常に気にしておりますので、この通学路の安全についての指導に、とても配慮してくれていると思いました。

いずれにしても、そのことも含めた学校生活の導入部、スタートに際しての1、2年生の指導が、わかりやすく編集されているということでは、東京書籍がいいというように思います。

以上です。

○【山口委員長】 是松教育長から、教育出版、東京書籍とありました。

○【嵐山委員】 この動くのを、会社は、やりたかったのでしょうか。

○【是松教育長】 確かに、面白いのですけれども。

○【嵐山委員】 これがいいかどうかですね。子どもは、こういうものが好きだけれども、真ん中にあることと、これほど厚いものを入れなければできないのか、これほど厚くならなくても、今の技術は進んでいると思えますが。

○【山口委員長】 使いにくいことは確かなので、今後、研究をしていただいとしたいと思います。

是松教育長からは、東京書籍のご推薦をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

城所委員。

○【城所委員】 生活科も子どもたちにとっては、わかりやすい教科書であるということも一つなのですが、教える側の先生にとっても、ある程度、情報があったり、先生方も使えるような教科書を選択したほうが良いというような印象を受けました。

そうなりますと、イラストに統一感があったり、目移りしないように工夫をしていかないと、子どもたちも楽しいところだけに行くと目移りして、何をしているのかわからなくなったりするので、ある程度の統一感があったりと、情報のボリュームもあまりたくさんあると、1、2年生には読み解けなかったりということもあるので、適切な情報の量というところも必要であると思いました。

社会生活のルールなどを扱っていくのですが、ルールがあまりにも強調されると、子どもたちにとっては少し息苦しくなるのではないかということと、先生方も、「ルールを教えない」というところに入り込むのも、少し窮屈ではないかと思うので、ルールの扱いなども、ほどほどとってはですが、そのあたりの視点も必要であるというように見せていただきました。

全体的なバランスとしては、東京書籍が、子どもたちにとっても、先生が使う教科書としても、バランスが取れていると思いました。

ただし、光村のほうは、文字が少なかったり、何か指示されているということも少ないのですが、雰囲気的に、五感を使うところに重視してあったり、一緒に体験していく中で、何か自分で見つけていこうというところには、とても好感が持てました。「ホップ、ステップ、ジャンプ」のような感じで、一緒に成長していこうというところが、見て取れた感じがありました。ただし、光村の場合は、

先生の経験年数や、その方の持ち味など、いろいろなものがあって、使いこなすのには、差が出るのではという印象があります。

そうすると、やはり、東京書籍の教科書が、一番バランス的にはいいという印象を持っています。以上です。

○【山口委員長】 東京書籍のご推薦を、城所委員からもいただきました。

○【嵐山委員】 生活も、継続して東京書籍なのですか。

○【山口委員長】 前回も、東京書籍です。

私からも一言です。1、2年生ということで、私は、一つは、使い勝手に、子どもたちがわくわく感を持つようなものというところを見て、東京書籍の教科書は、開いたときに子どもが映っていて、とても表情がいいと思いました。子どもたちが、「今から学校へ行くぞ」みたいで、「その中に入っていくぞ」という感じが、とてもあるので、まず、スタート、最初の最初なので、一番いい印象を持ったというところがあります。

それから、1、2年生ですので、先ほどの使いにくさのようなものもあるのですが、折り込みがあると、そこから壊れていくという可能性も、1、2年生だとあるので、折り込みが少ないところもいいと思ったところがあります。

それから、学校図書は、一回り少し大きいのですけれども、見やすい部分と、自然との触れ合いも、とても多くあっていいと思います。

啓林館も、「探検ブック」という別冊がついていまして、これが、非常に充実していると思うのですが、なくさないかという気も、少しだけしました。

日本文教出版は、生活の中で、点字が紹介されていて、盛り上がり印刷になっているのは、日本文教出版のみだったと思います。実際に関心を持って、いろいろなところで、駅の券売機などさまざまなところで触れてみると、子どもたちにとっては、とてもいいことだということも、感想として持ったところがあります。

1年生で、行動範囲が広がっていく中で、国立市でも、最初、4月、5月ごろ、1年生の下校時には、市内の放送で、「周りの人も、注意してください」のような放送をされていて、やはり、安全のことというのは、とても重要です。ただし、全ての教科書が触れていることなのですから、東京書籍は、「こうしなさい」というよりも、「子どもたち自身が考えよう」というような書き方をして、自分たちで、「今、ここだと何が危ないのかな、どうしたらいいのかな」と考えるというところは、先生も教えやすいのではないかと、「こうしてはいけませんよ」ではなくて、そういう姿勢が感じられたところがありましたので、私も、東京書籍がよろしいのではないかと思います。

高橋委員。

○【高橋委員】 生活科、自然との触れ合い、それから、社会の中から学ぶということからすると、まず、東京書籍です。上巻の学校探検に、人とかかわるという工夫があります。それから、さらに下巻に入っても、まち探検で、さらに2回目の人と深くかかわるという計画がされている。

それと同じようにしているところというのは、啓林館です。下巻のまち探検では、春と秋という2回の活動で深まりがあるのではないかと、人とのかわりということで評価できると思います。

それから、先ほど教育長も言われていました、東京書籍は、安全面について特別に欄を設けている。それから、同じ色の囲みで、非常に見やすくなっているという工夫があります。

ほかの出版社はどうかといいますと、大日本図書はセロハンを使って、隠れている虫探し、植物や虫のビンゴカード等を設定して、興味を引くという工夫が見られる。

学校図書は、つくって遊ぼうという12種類のおもちゃの作り方が、詳しく掲載されています。ただし、やや難しいのではないかとということで、どの教科書会社も、植物の栽培という点では、それほど遜色なく、大きな写真を使っている。非常にわかりやすくなっているかというようには思いません。ただし、光村図書は、その中で、全体の分量が他社より20ページほど少なくなっているということが、審議結果の報告書の中にもありまして、これは評価できないと思います。

日本文教は、いい点では、学校、まち、大きな活動は、イラスト、見開きで使って、活動への意欲づけというところでは、非常に効果的であると評価できますが、児童のカードが小さくて見づらいという難点もありますので、全体として、やはり、今使っている東京書籍が、使いやすいのではないかと思います。

以上です。

○【山口委員長】 高橋委員からも、東京書籍のご推薦をいただきました。

○【嵐山委員】 東京書籍が、いいと思います。

教育出版は、養老孟司さんが監修なのですが、ご自分も出てきて、子どもたちと一緒に虫を捕っていて、随分かかわっているのだと思って、教育出版は、私はかなり好きです。

しかし、皆さんが、東京書籍がよろしいというのであれば、東京書籍でいいと思います。

○【山口委員長】 嵐山委員から、教育出版もいいという意見がございましたけれども、東京書籍でよろしいということでした。

それでは、生活については、東京書籍を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、生活については、東京書籍を採択することといたします。

続きまして、音楽に移ります。音楽は、2社になります。よろしくお願ひします。

音楽は、1年生から6年生ままで、各1冊ずつ。教育出版と教育芸術社の2社が、教科書を出されています。

いかがでしょうか。

音楽の目的としては、表現や鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育てたり、それから、感性を育てること。それから、音楽活動の基礎的な能力を培ったり、情操を養うということ、大きな目的としているかと思ひますけれども、楽しく音楽に接し、親しむ気持ちをつくって、音楽のよさに入っていくことができるのかどうかというところが、ポイントではないかと思ひますけれども、いかがでしょうか。

城所委員。

○【城所委員】 音楽は、2社を見せていただきました。教育出版は、いろいろとチャレンジをしているという印象がありました。資料や曲の数も多いですし、構成なども、楽しくにぎやかに書かれている感じで、色も鮮やかで、とてもインパクトが強いような印象を受けました。

ただし、さまざまなお子さんが、今いる中で、インパクトが強かったり、色鮮やかなことが、かえってよくないような場面もあるのではないかと、少し危惧をいたしました。

教育芸術社のほうが、全体的に、特別、刺激を与えるような作りはしていないというような印象を受けました。

教育出版のほうも、とても楽しくて面白くていいのですけれども、今、学校にいる子どもたちを想像してみて、全体を見渡すと、教育芸術社のほうが、全体的なバランスとして、歌や楽器など、音楽に親しんでいくということが、単元でもバランスよく入っていくのではないかと思います。

それから、1年生のときには、鍵盤ハーモニカをやったり、3年生になってのリコーダーは、つまずきやすいところなのですが、これは、両方の会社とも、そこにつまずかないで、移行していければというところが、細かく出ていたと思います。

少し気になったところは、「こんなふうに歌いましょう」というように限定されると、音楽の時間なども、先生がそれにならわなくてはいけないようなということもあるのではないかと思いますので、音楽も、各先生に任せて、自由にできる場所も残したほうが、いいという印象もあります。

私は、教育芸術社の教科書を推薦いたします。

○【山口委員長】 城所委員から、教育芸術社を、現在も使われているのですけれども、ご推薦がありました。

ほかには、いかがでしょうか。

高橋委員。

○【高橋委員】 2社しかありませんので、どちらがいいか、どちらを取るかということは、選びやすいようで、実は、選びにくいものです。好みで分かれてしまうという傾向があるのではないかと思います。

教育出版は、とても写真もきれいで、それから、イラスト、色彩が、非常に目立ちます。素人目には、とても楽しい感じがします。いい点としては、「音楽ランド」として、児童が、特に興味を示しそうな作品が、多く収録されているというよさもあると思います。

教育芸術社は、とても落ち着いた、先ほど城所委員もおっしゃっていたように、色彩がとても落ち着いた感じで、全体のトーンが易しい色使いで、落ち着いて学習ができるのではないかと思います。各単元の狙いに即した教材で、指導しやすい、何を学ぶかということがわかりやすいという特徴もありますので、どちらかに決めなければならないとすれば、現在も使われている教育芸術社が、いいのではないかと思います。

○【山口委員長】 高橋委員からも、教育芸術社のご推薦をいただきました。

○【嵐山委員】 同意見です。

○【山口委員長】 嵐山委員も、同意見とのことです。

是松教育長。

○【是松教育長】 個人的には、教育出版の教科書がいいと思っております。といいますのは、教育芸術社のほうは、歌うこと、それから、演奏をすることという実技に特化したとてもシンプルな編集で、歌う、演奏するという点に関しては、教育芸術社のほうが優れた内容になっていると思います。

そういった意味で、今、学校では歌う、演奏するということを中心に据えて、この教育芸術社の教科書で、音楽教育を行っているのだというように思うのですが、歌う、演奏するだけではなくて、というよりも、歌う、演奏するということは、小学生や中学生の間はあるのですが、だんだん大人になってくると、分化してしまっていて、一部の人しか歌ったり演奏したりしなくなります。ほとんどの人は、大きくなって、音楽というものは、いわゆる聞く側として、鑑賞する側としての立場に立つ方が、圧倒的に多いのです。子どもたちも、おそらくそうなると思うので、いかに、幅広い音楽の情報を子どもたちに与えて、子どもたちが大きくなったときに、質の高いリスナーに成り

得るかということも必要なのではないかと思います。全ての子どもたちが、歌う、演奏するアーティストになっていくのではないのです。

そういった意味では、質の高いリスナーを育てるということでは、教育出版では、5、6年生から、情報量を多くしております、幅広い音楽領域にわたって編集しております。ワールドミュージック系であるなど、それから、不易と流行の部分においても、いわゆる、歴史的な音楽家だけではなくて、現代的な、元ちとせであるなど、五嶋みどり、辻井伸行といった、最近の子どもたちにも関心の高いアーティストの写真等も、多く掲載されているところです。また、日本唱歌の草分けとしての、高野辰之や岡野貞一といった人たちの紹介や、ジャズとオーケストラの融合としてのジョージ・ガーシュウインの紹介など、どちらかという、鑑賞、情操を育てるという意味での音楽教科書というようにしてあるではないかと思います。

私の音楽観からすると、私も、一リスナーでありますので、多くの質の高いリスナーがもっと育てていただければいいということを見ると、教育出版の教科書に、どうしても思いが行くのですが、ほかの委員の方が、やはり、実技的な面で、子どもたちが、今、歌うこと、演奏することを教えていくということに、学校で力を入れているということで、教育芸術社を推していらっしゃるようですので、教育芸術社でまともれば、異議はありません。

○【山口委員長】 是松教育長から、教育出版のほうが、いろいろと、今後のことを考えるとよろしいのではないかという意見と、ほかの委員の方の意見に合わせるということのご発言がありました。

私は、正直言って、音楽は苦手の分野なので、詳しくなくて申しわけないのですが、楽しく、興味を持っていくということで、教育出版は、どんどん新しい歌を取り入れたり、さまざまなこと、私は、また手話で引っかけたのですが、手話も中で使うのです。音楽と手話というのは、今後、ポイントになるのではないかといいいますか、面白いのではないかと、実は、個人的には思っているのですけれども、手話を取り入れたりしているところなどは、とても面白いと思ったところがございます。

ただし、審議会の結果報告を見ると、先生方も迷われているような雰囲気を感じたのですけれども、いわゆる、音楽の教科書として、教えやすいところでいうと、今まで使われている教育芸術社の、音楽指導していく中での音楽教育を、子どもたちに伝えていくことのほうが、やりやすさもおありになるように感じたところがございますので、私も、迷ったのでございますけれども、教育芸術社を推薦したいと思います。

それでは、二つで迷ったところがありますけれども、音楽については、教育芸術社を採択するというので、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 では、音楽は教育芸術社を採択することといたします。

続きまして、図画工作になります。図画工作も、開隆堂と日本文教出版の2社から、教科書が出ております。

いかがでしょうか。図画工作です。

是松教育長。

○【是松教育長】 こちらも、2社のどちらかということなのですが、図画工作の場合は、表現、鑑賞活動を通して完成を育て、豊かな情操を養い、また、製作、造形を通して、表現の楽しさを実感するということが教育目標であります。

2社を比べましたところ、創作をしたくなる作品が多い、自分の創作に当たって、発想を豊かに導

いてくれるというところ。それから、こういった作品なら自分にもできるかもしれないという取り組みやすさ、そして、最後は、工作等に当たっての安全性の配慮というところを見ますと、日本文教出版社がいいのではないかと思います。

以上です。

○【山口委員長】 是松教育長から、創作の視点で、日本文教出版社さんがよろしいのではないかと
いう推薦の意見をいただきました。

高橋委員。

○【高橋委員】 私も、日本文教は、題材ごとにめあてが観点別に示されていて、重点もさらに示され、課題の把握に有効である。これは、教える側にとっても、非常に教えやすいのではないかと思います。

それから、表紙も含めて、教科書のページをめくるのが楽しい。ページをめくりながら、やってみ
たいと教師がわくわくする。教師がわくわくするというのも、とても大事なことだと思ひまして、
日本文教がいいのではないかと思います。

以上です。

○【嵐山委員】 図画工作は、前回、現場の先生からの報告で、こちらの教科書を使っているという
意見がたくさんあった本ですね。

○【山口委員長】 前回とは変わったところがあるのですが、今は、開隆堂を使っています。

○【嵐山委員】 そうですか。前は、先生が、今まで使っている教科書は、教えるのにいいのは、開
隆堂でということ、決まったのですか。

○【山口委員長】 前回のことは、よくわかりませんが…。

○【嵐山委員】 現場の先生の意見で、決まった気がしていたのですけれども…。

○【是松教育長】 小学校の採択ときは、私は、覚えていませんけれども、中学校のときは、そうい
う意見があったかもしれません。

○【嵐山委員】 先生が使っているからというのは、中学校でしたか。図画工作は、特に、使ってい
たからということが多いと思いますから、現場の先生の意見を、とても重要視した記憶があるのです
が、それは中学校でしたか。

○【是松教育長】 だったような記憶がありますが、あまり…。

○【嵐山委員】 今は、開隆堂を使っているのですか。

○【山口委員長】 今は、開隆堂を使っていますが、今回、ご推薦が多いのは、開隆堂ではなくて、
日本文教出版のほうです。

○【嵐山委員】 そうですか。それでは、文教ですね。先生がいいというのが、一番いいと思います。

○【山口委員長】 城所委員。

○【城所委員】 私も、2社を見せていただきまして、日本文教のほう、作品の写真や子どもたち
の表情が、とても生き生きしている感じが印象的でした。作品数もとても多いのですが、あまり雑然
とならずに、構成上もとてもきれいにされていると思いました。先生方の報告書にも書いてあるの
ですが、教える側がわくわくするという事は、とても大きな要素だと思います。私自身も見せていた
だいて、とてもわくわくしてきました。

それから、道具の使い方などもわかりやすく説明をされていて、とても使いやすく、見やすく、
楽しくてというような印象を受けましたので、今回は、日本文教を推薦させていただきたいと思ひま

す。

○【山口委員長】 城所委員からも、日本文教出版のご推薦がございました。

2社のうちで、現在、開隆堂を使っておりますが、しっかりとした教科書で、考えること、楽しむこと、工夫することや、感じたりすることも伝わりやすいようなところがたくさんあって、教えやすくつくられているというように、もちろん評価されているところもあるし、アーティストの方や、ほかの分野の方の言葉が最初に書いてあって、子どもたちに訴える部分があるのもいいと思ったのですが、日本文教出版が、かなり工夫をされて、前回の教科書、前回お出しになったときから、変えられてきたところは、現場の先生方からと、審議会での検討の中で、ありありと伝わってきまして、先ほど高橋委員も言われたように、先生がページをめくるのが楽しい、わくわくするということを感じさせる。これは、子どもにも、特に、図画工作は伝わってくると思うので、とても大きいというようなことがあります。そういうところで、今回、現場の先生のご意見、審議会の結果の報告書等々、報告を受けたところも合わせて、日本文教出版にしたらよろしいのではないかと、私自身も思っているところでございます。

よろしいでしょうか。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 はい。いいです。図画工作の本は、楽しいですね。

○【山口委員長】 それでは、図画工作については、日本文教出版を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 では、図画工作は日本文教出版を採択することといたします。

続きまして、家庭科に移ります。家庭科も2社です。開隆堂と東京書籍の2社の教科書が、出ております。

家庭科は、5年生、6年生が使う教科書になっております。家庭科は、全体的に、衣食住、全ての生きることに関する実践や体験的な活動を通して、基本的な知識や技能を身につけたり、家庭生活を大切にしようという心根、心情を育んだり、よりよくする実践につなげるようなものを教えるということが目標になると思いますので、家族とのかかわりや、日常生活の活用などがポイントであると思いますけれども、いかがでしょうか。

高橋委員。

○【高橋委員】 東京書籍は、日本の伝統という欄で、日本文化を伝えていきます。内容に変化があるということで、これは、評価できると思います。

それから、開隆堂のほうは、調理実習の手順が、写真で示されているということから、非常に、児童にわかりやすい。さらに、振り返りが明記されているので、見やすくわかりやすい。

両方で評価が分かれるところは、東京書籍は、単元構成で、5年生の最後にミシンの授業、単元を持ってきている。これは、実際の現場の先生からは、5年生の最後というのは指導しにくいという意見が出されています。開隆堂のほうは、5年生のミシンが2学期にあって、2学期に展覧会などを企画している、行事を企画している学校にとっては、展覧会作品に取り組みやすいというメリットがある。こういうことが、指摘されています。さらに、開隆堂は、準備するものがリスト化されているということから、準備がしやすいと思います。

こういったメリット、デメリットを考えていくと、今の教科書をかえることになりませんが、開隆堂

がいいのではないかという判断をしました。

以上です。

○【山口委員長】 高橋委員から、現在使っている教科書からかえることになるのですが、開隆堂のご推薦をいただきました。

ほかにいかがでしょうか。

是松教育長。

○【是松教育長】 先ほど、家庭科の教科目標については、委員長から述べられたとおりですので、その点において、東京書籍も開隆堂も、両方ともよくできていると思います。

2社とも、甲乙つけがたいということでございますが、では、どうするのということになるのですが、先ほど、高橋委員もおっしゃられたように、審議会報告の中で、ミシン指導の時期や、あるいは振り返りのしやすさ等で、今までは東京書籍を使っていたのですが、今回の審議会報告の中では、開隆堂の評価が東京書籍よりも強いというところを鑑みますと、現場での使い勝手というところで、教科書はかわりますが、開隆堂でよろしいのではないかと思います。

○【山口委員長】 是松教育長から、現場の使い勝手、使いやすさということで、開隆堂のご推薦をいただきました。

城所委員。

○【城所委員】 私も、どちらもよくできていると思って、見させていただきました。最終的には、審議会の結果を見せていただいたところ、現場で、時期や、ものの準備のぐあいなど、教科書の使い勝手などで判断させていただきました。

私も、教科書はかわりますが、開隆堂を使っていたらと思います。

○【嵐山委員】 私も、同意見です。

○【山口委員長】 嵐山委員のご意見も、開隆堂です。

私も、2社で迷っていましたが、家庭科ですので、衣食住のことが、全て詳しく載っていて研究されているとも思ったのですけれども、細かく見ていくと、東京書籍のほうがどちらかというと、

「衣」についての分量が多くて、開隆堂は、「食」についての分量が、多少多いという印象で、力の入れ方の違いを、若干感じるどころがありました。どちらも、両方重要なのですけれども、その違いを感じられるところがありました。

それから、東京書籍でいいと思ったのは、「持続可能な社会」という記述が、最後にあって、地域社会など、日本全体、地球全体を考えていく中で、今後、どうしていったらいいのかという視点が載っているところは、非常にいいというように思ったところがありました。

開隆堂さんは、最後に振り返りのページがあって、今の実際の生活の中に生かす視点というのを取りやすいと思ったところがありました。

私も、審議会結果等々を読み込んでいく中で、今回は、開隆堂の教科書がよろしいのではないかと、思っているところでございます。

それでは、家庭については、開隆堂を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 では、家庭は開隆堂を採択することといたします。

最後になりますけれども、保健について、ご審議いただきたいと思います。保健は、5社から教科書が出されております。3年生から始まって、3、4年生、5、6年生の2冊になった教科書です。

ご意見を申し上げます。

是松教育長。

○【**是松教育長**】 5社ですけれども、形状としては、大日本図書、光文書院がB5判ということで、ほかよりも小さいので、当然ながら、小さい分、文字は小さいですが、その割に、では、ボリュームがあるかというところ、これも意外と薄くてボリューム感に欠けるという感じがします。

東京書籍はA4判で、中間の大きさですが、文教社と学研教育みらい社はA4判という形で、少し大型になっています。

こうした中で、私は、学研教育みらい社がいいと思います。気づき、調べ、まとめ、振り返りがよく編集されております。それから、5、6年生に、「心ってどこにあるの」ということで、心の働きは脳で行われているということを明示しております。特に、随所に出てくる科学の目というところで、それをしっかり子どもたちに教えていっているというところがいいと思いました。

それから、「犯罪から身を守るために」ということで、その発展として、インターネット被害にも触れているというところは、これからの子どもたちの情報モラル教育においても、必要であると思いました。

それから、病気予防については、抵抗力について、しっかり説明がされているということで、単なる病気の種類を知るだけではなくて、みずからの抵抗力を強めていこうという記述がしっかりされています。

それから、パソコンやタブレット、これは、スマートホンなのですけれども、長時間使用による健康の影響にも触れているということで、これからの子どもたちに新たに降りかかってくるインターネットや、いわゆる、ICT機器による健康についても、よく編集されているということで、総合的に、学研教育みらい社がいいと思います。

○【**山口委員長**】 是松教育長から、総合的に見て、学研教育みらい社。これが、正式名称の会社なのですか、学研の教科書がよろしいということで、ご推薦をいただきました。

高橋委員。

○【**高橋委員**】 東京書籍は、見開きで、学習課題、「振り返ってみよう」、「考えてみよう」、「学習して深めよう」、「話し合ってみよう」という構成で、学習の流れがつかみやすいというメリットを感じました。

大日本図書は、先ほども、教育長が触れられたように、サイズの問題が少しあります。各単元の最後に、「もっと知りたい」という資料が見開きで設定されていて、発展的な学習にも対応できるという点ではいいかと思います。ただし、中学年で、全体を通して、写真ではなくてイラストが多いということから、やはり、写真のほうがいいのではないかと。正確性ということから、写真のほうがいいのではないかと思っています。

文教社。こちらは、イラストや写真、グラフなどが多数掲載されています。という点では、いいのですが、説明が、やや少ないということから、わかりにくいのではないかと思っています。

光文書院は、こちら工夫されています。学ぶ、学んだことを、当てはめようという構成になっていて、習得し、活用していくという学習の定着を図りやすいという点では、評価できると思います。

学研は、1時間の授業で学ばせる学習の内容が、どの単元も2ページ分になっている。これが、適切な分量ではないかということが、現場の先生方の声ということ。次のページに資料を載せているということが多くて、学習の内容を深められるという構成も考えている。さらに、学習のまとめがあっ

て、自分の生活を振り返って生かすことができるといったこと、写真のことなど、こういったことから、授業の流れといったことを考えて、総合的に考えていくと、やはり、今使われている学研がいいのではないか。さらに、地域での取り組みということで、東京都と他の地域の特色を習得することができるというメリットもあるということから、総合的にも、学研がいいというように思います。

以上です。

○【山口委員長】 高橋委員から、各社のポイントと、総合的に学研のご推薦をいただきました。

○【嵐山委員】 私も学研です。

○【山口委員長】 嵐山委員も、学研ということですか。

○【嵐山委員】 学研は、前からですね。

○【山口委員長】 学研は、前回は採択しています。

○【嵐山委員】 学研は、前もそうですが、保健はいいのです。

○【山口委員長】 城所委員。

○【城所委員】 5社、見せていただきました。各社、サイズやボリュームや内容等も、いろいろと変化がありました。それから、教科書的につくってあったり、ワークブック形式であったりと、いろいろな工夫が見られました。しかし、全体を見ていくと、単元によっては、年齢的にデリケートな問題も、デリケートな部分を扱うところもあるので、そういうところの表現が、適切なイラストであったり、写真であったりということも見ていくポイントとなりました。そういう点からも見せていただいて、総合的に、学研を引き続き使わせていただければと思います。

基礎、基本も丁寧に、わかりやすく説明をしてありますし、イラストや写真なども適切なものが使われているのではないかと思います。

先ほど高橋委員も触れられましたが、現場では、今、両ページ見開きで授業が進むということもお聞きしていますので、分量的にも適切ではないかと思います。全体的な構成や色調など、落ち着いた雰囲気も、年齢的にも適切ではないかというように思いました。

以上です。

○【山口委員長】 城所委員から、全体を見て、学研が総合的によろしいのではないかというご意見をいただきました。

私も述べさせていただきたいと思います。保健は、各委員がポイントとおっしゃたのですけれども、健康で安全な生活をするための基礎的なところ、心と体の発達、発育の理解をしっかりと極めるということです。ちょうど、3年生から6年生、今、成長が早くなっていることもあると思うので、一番、子どもたちが変化する初めのころで、とても重要な授業となっていて、なおかつ、安全、危険からの回避のようなところも、しっかりとやっていかなければいけない。自分自身の生活のイメージをつくるということが、ポイントであると思います。

一つは、イラストや写真を使いながら、各社とも成長する自分自身の変化や、そこで戸惑うであろう内容をうまく説明してあるということは、非常に感じたところがございます。そのところの濃淡が、若干あるものですから、できるだけ教えやすい教科書を選ぶということが必要かと思えます。

それから、一つ大きいことは、心の健康というところが、今、さまざまな問題とされている部分で、例えば、大日本図書は、心をほぐす運動の具体的な例が出ていて、これなども、一つの方法としていいと思います。文教社は、友だちからのアドバイスを、上手に聞くような形での取り組みを、ほかの教科書も入っているのですけれども、そのポイントが入っているというところで、いろいろなアイデ

アが必要であるというように思って、見させていただきました。

それから、困ったときの相談窓口が、さまざまな形で各教科書に載っていることも、いいと思いました。このことは、総合的に考えなければいけないことかと思うのですが、「こういうところに電話したらいいよ」、「こういうところに連絡したらいいよ」、「こういうところに相談したらいいよ」というところが、しっかり出ているのは、全体的にいいと思いました。

その中で、特に、心の健康がわかりやすく、子どもたちにとってイメージとといいますか、捉えやすい部分で入ってきやすいのは、学研教育みらい社だと思いました。これは、ほかの委員の方も同じ感想でございます。学習のまとめや、「もっと知りたいコーナー」で、実際に学んだことを自分の生活の中に生かしていくような、つながりを持つような工夫もされているということも、一つのポイントとして感じたところでございます。

ほかにご意見は、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 それでは、保健については、学研教育みらい社を採択することで、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 では、保健は学研を採択することといたします。

これで小学校全教科の教科用図書の採択が終わりました。

それでは、確認のために、事務局から、きょう選択しました教科書を読み上げていただき、確認をしていただきたいと思います。

金子教育指導支援課長。

○【金子教育指導支援課長】 それでは、採択結果について確認いたします。

国語、光村図書出版株式会社。書写、光村図書出版株式会社。社会、教育出版株式会社。地図、株式会社帝国書院。算数、東京書籍株式会社。理科、教育出版株式会社。生活、東京書籍株式会社。音楽、株式会社教育芸術社。図画工作、日本文教出版株式会社。家庭、開隆堂出版株式会社。保健、株式会社学研教育みらい。

以上でございます。

○【山口委員長】 ありがとうございます。

ただいま、金子教育指導支援課長から、全教科について採択図書を読み上げていただきましたが、間違いはございませんでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○【山口委員長】 よろしいですね。

それでは、ただいま、金子教育指導支援課長から読み上げられました図書を、平成27年度の国立市立小学校使用教科用図書として採択いたします。

これをもちまして、小学校教科用図書の全教科書の採択が終わりました。ご苦勞様でございました。一言、感想を述べさせていただきます。

これらの教科書を、今、採択いただいた教科書は、来年度の4月から原則として4年間になります。が、市内の市立小学校で使用されることになります。

今回の教科書採択に当たりましては、5月中旬から教科書を全教育委員で読みました。私も、何度も読み返しました。嵐山委員ではないのですが、読みふけるといいますか、それぞれ引きつけられる

ものがあって、各教科書会社が、本当に工夫をされてつくられている、子どもたちのことを思いつくられているということを、ひしひしと感じたところでございます。

また、我々が参考にいたしました、教科用図書審議会及び教科用図書研究調査委員会、これは、現場の先生方を中心につくっていただきましたけれども、先生方が、実際の現場の状況、使い勝手等々を踏まえて、よりよい教科書の採択に向けて検討をしていただいて、そのご報告をいただいて、我々が参考にさせていただきました。

また、最初に、金子教育指導支援課長からもありましたけれども、公民館、図書館で、教科書を市民の方に見ていただいて、アンケートをいただきました。そのアンケートも参考にさせていただいて、きょうの採択の会議に臨んだことでございます。感謝しております。

これから、次年度以降、教科書を活用して、児童、子どもたちが、本当に、人としてよりよく成長しけるように、各学校、先生方と我々も協力をしながら進めていきたいと思っておりますし、教育をしていけるようになると、確信をしております。

本日は、本当に、皆様方のご協力で、無事に採択の委員会を終えることができました。感謝でございます。ありがとうございました。

これをもちまして、本日の臨時会を閉会といたします。

なお、今回は、定例の教育委員会になりますけれども、定例会を8月26日火曜日、午後2時から、会場はいつもどおり、教育委員会室で開催することが決定しております。

傍聴の皆様、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

午後4時22分閉会